

令和5年度 府中市立府中第二小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くときに、助詞や長音、促音や拗音などを正確に使う書くことに課題がある。 自分の考えを発表したり、話し合ったりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文や日記に継続的に取り組ませ、文章を書く機会を増やす。 自分の気持ちを伝えたり、相手の意見を聞いたりする場面を意図的に設定し、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う機会を設ける。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> たし算やひき算を、図や絵に表すことに課題がある。 文章を読み解く力に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物や半具体物を用いて、問題を捉える場面を授業で意図的に取り入れる。 自力解決の時間を十分にとることと同時に、交流する時間を確保し、課題解決の充実を図る。 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> 生き物を観察する視点が画一的になりがちなので、広く気付きをもたせることに課題がある。 見ているものを絵や文で表現する力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童どうしの関わり合いを大切に、伝え合いの経験を積ませ、気付きの質を高める。 絵や文で表現する際のポイントを先に伝え、表現することへの見通しをもたせる。 思いや願いをもち、活動や体験をし、感じ、考え、表現するという学習の流れを意識した授業を展開する。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リズム遊びでは、表現することに苦手意識があるなど、個人差が見られる。 鍵盤ハーモニカの扱いに、まだ慣れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現することが苦手な児童に対して、簡単なリズムからスモールステップで取り組み、慣れさせていくことで自信を付けていけるようにする。 ペアなどで交流して表現のよさを感じ取ったり、表現する喜びを味わったりすることができるようにする。 ICT機器を活用し、鍵盤ハーモニカの扱いや運指などを視覚的に捉えられるようにする。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> はさみを使って紙を切ったり、折ったり、のりを使って貼ったりする技能に個人差が見られる。 友達の作品にも関心を広げ、発想や工夫のよさから学ぶことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人が自分の表現を楽しめるように、素材や技法などを工夫し、いろいろな表現方法を体験することができるようにする。 作った作品を見合ったり、作品について話し合ったりする機会を設定し、表し方のよさや面白さに気付くことができるようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 一定の力を維持して真っ直ぐ走ったり曲がって走ったりすることに苦手意識がある。 ボール遊びをする際に、ボールを扱う技能に個人差が見られる。 固定施設を使つての動きを苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな形状のコースを作ったり、スタートの姿勢を変えたりしながら、いろいろな走り方を体験させる。 形や大きさ、弾む・弾まないなど、いろいろなボールを使い、つく・転がす・投げる・当てる・捕る・蹴る・止めるなどの多様な動きを経験させる。 活動ごとに学習カードを使い、ポイントを明確に示す。また、ペアやグループで見合い、アドバイスするなど、実態に応じた関わり合いの場面を意図的に設定する。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第二小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や順序を意識して書くことに課題がある。 文章を正しく読み取る力に個人差が見られる。 聞き手を意識して話すことや、要点を捉えながら聞くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く学習ではメモを用いたり、構成を意識させたりする指導を継続的に積み重ねていく。 読み聞かせや読書カードを活用し、読書量の確保と読書習慣を身に付けられるようにする。 ペアやグループでの活動で、自分の思いを伝えたり、他者の考えに触れたりする機会を意図的に設定する。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> たし算やひき算を、図や絵に表すことに課題がある。 文章を読み解く力に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物や半具体物を用いて、問題を捉える場面を授業で意図的に取り入れる。 自力解決の時間を十分にとることと同時に、交流する時間を確保し、課題解決の充実を図る。 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> 生き物の飼育についての経験差があり、苦手意識をもつ児童もいる。 生き物を観察する際に、生き物の成長の変化や様子への気付きに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 飼育・栽培活動では、その生育条件や変化に着目させながら、日々の世話を継続的に行わせる。 個々の気付きから課題を設定し、事前に予想を立てさせたり、自ら調べたり、体験したりしたことを伝え、学習を振り返って次の課題をもたせる。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 思いや考えを生かして音楽活動に取り組むことに課題がある。 鍵盤ハーモニカや歌唱などでの基礎的な技能の習得に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループでの伝え合う活動を取り入れ、新しい思いや考えに触れる機会を取り入れる。また、児童の自由な表現を肯定的に受け止め、表現することの楽しさを味わえるようにする。 ICT機器を活用して、視覚的に分かりやすい指導を充実させるとともに、個別指導を充実させる。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 基礎技能（切る・折る・貼るなど）に個人差が見られる。 他者の作品の鑑賞について、感想を言葉にして表現したり、よい所を見つけたりに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の生活の中に、「切る・折る・貼る」活動を意識的に取り入れ、技能が身に付くようにする。 お互い作品を鑑賞し、よい点を見つけて伝え合う活動を取り入れる。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動の方法や場を工夫して活動を行うことに課題がある。 日頃の生活や休み時間の過ごし方によって、児童間の体力や技能の差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードの活用することで、意欲を維持させながら、運動遊びの工夫を考えさせる。 低学年ならではの固定施設を使った運動遊びや、体ほぐしの運動遊び、表現遊びなどをたくさん取り入れ、基本的な体の使い方ができるようにする。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第二小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の習得や、語句の定着に個人差が見られる。 ・自分の思いや考えをもち、内容の中心をはっきりさせて分かりやすく文章に書き表すことに個人差が見られる。 ・自分の考えをすすんで相手に伝えることに苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習では、計画的にミニテストを実施し、練習を繰り返して行い、定着を図る。また、国語辞典を活用して、様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしていくとともに、話や文章の中で実際に使う意識を高めていく。 ・相手意識、目的意識をもたせて文章を書く機会を増やす。書くことに慣れさせ、メモを活用したり、段落構成を工夫したりして、分かりやすい文章づくりを意識させる。 ・「伝え合い」の機会を増やし、自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりする中で、互いの考えを認め、学び合うよさを実感させる。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算九九、くり上がりやくり下がり、計算、時間の意味の捉え方などの基礎的な知識、技能の定着・活用に個人差が見られる。 ・文章問題では、問題場面や数量関係を捉えて立式することに課題がある。 ・単位が、どのような大きさを表し、どのように利用されているかなど、単位と具体的な生活場面とを結び付けることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レディネステストで既習事項の習熟状況を確認し、習熟度に合わせたグループを設定した上で、学習内容を工夫しながら指導を進める。個に応じた教材、教具を準備し、指導を充実させる。 ・具体物を用意したり、数直線や図に表したりして、問題場面や数量関係を視覚的に理解させる。また、ICT機器を効果的に活用する。 ・学習内容を日常生活と関連付けることで、単位を生活に生かすなど、授業での学びを様々な場面で活用することができるようにする。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験で予想を立てることに課題がある。 ・植物や昆虫等、生き物について、興味や経験の違いから、生活経験に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や結果、考察の場面では、子供同士の多様な考えを認め、主体的に考えさせる。また、既習の内容や生活経験を振り返る場面を設定し、自分なりの予想を立てることができるようにする。ICT機器を活用することで、自然の事物・事象を視覚的に捉えられるようにする。 ・植物や昆虫を探したり、育てたりする中で、共通点や差異点に注目して、新しい気づきができるようにし、更に調べたいという意欲を高められるようにする。 ・単元の終わりに振り返りを行い、学習したことを生活に生かせるようにする。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市や学校の周りなど、身近な地域の地理的な知識等について、興味や経験の違いから、個人差が見られる。 ・地図や資料から読み取ったり、自分の意見や感想をまとめたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を生かしつつ、経験との重なり、生活との関連を考えさせ、興味関心を高められるようにする。ICT機器を活用し、地図や資料を具体的にイメージさせたり、実際の場所と関連付けたりし、理解を促す。 ・様々な地図や資料等について、手順を追って丁寧に読み取る指導をし、まとめ学習の基盤をつくる。学んだ知識を使って考え、活用する機会を意図的に設ける。 ・学習課題を明確にし、追究、解決する活動を取り入れ、実際に見たものや調べたものから考えを見だし、まとめられるようにする。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダー、歌唱、鍵盤楽器などの基礎的な技能に課題がある。 ・思いや考えを生かして音楽活動に取り組むことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を明確にし、必要な知識・技能を計画的に指導していく。 ・ICT機器を活用して、視覚的に分かりやすく指導するほか、個人差に合わせて選択して取り組めるようにする。 ・思いや考えを言葉や音楽で伝え合うこと、実際に歌ったり演奏したりすることを繰り返しながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫するよ 		

令和5年度 府中市立府中第二小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

		うに促していく。また、児童が工夫した表現を互いに聴き合いながら、よさを認め合う機会を設けていく。		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の特徴をつかみ、材料に合わせて用具や道具を選び使うことに課題がある。 ・意欲的に制作に取り組むが、発想を広げ、作品へのイメージや見通しをもって制作することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を用意するときに用具や道具の使い方を掲示し、使い方の指導を確実に行う。繰り返し用具や道具を使い、使い方を習得させる。 ・児童の発想を豊かにするために、色や形、自然物にたくさん触れさせる。また児童同士作品を交流する機会を設け、様々な感じ方や表し方があることに気付かせる。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の方法や場を工夫して活動を行うことに課題がある。 ・ボール操作や器械運動などについては、生活経験などによって大きな差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードの活用し、運動の場の例等のモデルを参考にしながら運動の方法を工夫できるようにさせる。 ・体づくり運動を、年間を通して継続して行い、運動経験を豊富にしていく。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第二小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 書く内容の中心を明確にし、段落の構成を考えたり、目的を意識した表現にしたりするなど、文章を整えることに課題がある。 正しい熟語や送り仮名を書くことに課題がある。 友達の考えを聞くことは好きだが、自分の考えを相手に伝えることに対しては苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力を増やしなが、文章を書く機会を多く設定し、文を書くことに抵抗がないようにする。書いた文章を読み返すことで間違いを直し、文章を整える習慣を付けさせる。 国語辞典を日常的に活用できるよう指導する。 小グループでの話し合い場面を多く設定し、発言する機会や自分の考えを認められる場面を多く体験できるようにする。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 測定や図形の学習において、習熟度に個人差が見られる。 かけ算九九をはじめ、四則計算の習熟に個人差が見られる。 計算の仕方や意味を図や表を用いて説明する力や、文章を読み解いて立式する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を生活に関連付けて捉えたり量感を養うために長さや重さをイメージしたりする場面を授業の中で意図的に取り入れる。 授業のはじめに既習事項の確認を行い、個別指導の充実を図る。 基礎的な問題でのつまずきを早期に発見し対処する。また、自力解決の時間、交流する時間を確保し課題解決型の授業を展開する。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験を基にして予想したり、結果の見通しをもって実験を行ったりすることに課題がある。 実験結果から考察し、結論を導き出す力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動や事象提示の場面で、既習事項や生活体験を想起させ、児童が根拠をもって予想することができるようにする。 実験結果の予想を立てるようにする。また、考察の書き方の型を示し、自分の予想と実験結果の比較から、学習問題に対する結論を導き出せるようにする。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 東京都やその周辺地域などの地理的な知識等について、興味や経験の違いから、個人差が見られる。 資料から必要な情報を正しく読み取ること、それを根拠に社会生活の様子について考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かしつつ、経験との重なり、生活との関連を考えさせ、興味関心を高められるようにする。 図やグラフ、写真などを拡大表示するなど、分かりやすく示した上で、その読み取り方や着目点、活用の仕方を指導する。 資料を読み取って得た情報から考えられることを話し合い、それを根拠に社会生活について考えることができるようにしていく。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 美しい音、楽しい音楽をすすんでつくろうとすることに課題がある。 読譜力やリコーダー等の演奏技能に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音を聴き合いことを大切にし、美しい音への意識をもたせる。 読譜やリズム打ちなどを継続的に行い、定期的に個別指導を行う。 ペアやグループ学習を効果的に取り入れ、友達の歌や演奏のよさに気付かせ、自分の表現につなげさせる。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> イメージを膨らませ、自由な発想を広げて制作することに課題がある。 制作活動の見通しをもつことに、個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童にとって魅力的な題材を選択し、一人一人のよさを引き出せる活動を計画し、互いのよさを認め合う言葉掛けをする。 ICT機器等を活用し、作業の進め方や見通しを分かりやすく説明、提示する工夫をする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 得手不得手によって運動に関わる意欲に個人差が見られる。 ICT機器を活用した課題解決の学習の進め方が十分に身に付いていない。 ボール操作や器械運動などで、生活経験などによって技能に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「する・みる・支える・知る」の視点を意識した単元計画を児童と合意形成を取りながら設定する。 振り返りや記録表、課題を解決する道具としてICT機器を活用し、課題を見いだしたり解決したりする方法を伝えていく。 体づくり運動を、年間を通して継続して行い、運動経験を豊富にしていく。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第二小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を正確に読み取る力に課題がある。 文章を書くことに苦手意識がある。 自分の考えを明確にして相手に伝えたり、相手の考えから自分の考えを広げたりする力に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み取る時のポイントや視点を与える等、読み取りの指導を丁寧に行う。 日常的に書く機会を増やすとともに、「書くこと」の単元では、文章の構成を考えて下書きやメモをすることを繰り返し指導し、書くことに慣れさせる ペアやグループで伝え合う活動を取り入れ、互いの考えを理解できるようにさせる。また、構成を考えて話すことや要点を押さえて聞き取ることを意識させるために、交流の中でのメモの活用の仕方を指導する。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 単元や授業内容によって、学習意欲に個人差が見られる。 四則計算や用具を正確に使って測定、作図をする技能の定着に個人差が見られる。 計算の仕方や意味を図や表を用いて説明する力や、文章を読み解いて立式する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の学習内容を生活に関連付けて捉えたり量感を養うために長さや重さをイメージしたりする場面を意図的に取り入れる。 単元で活用する既習事項の振り返りを授業の中で行い、個別指導の充実を図る。 考えたことを図や数直線、4マス関係表などを用いて表現し、根拠をもって解決していく力を身に付けさせる。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験の目的や、問題設定の必要性を自分事として捉えられていないことから、まとめまでの見通しが十分にもてていない。 問題—まとめ、予想—考察のつながりを把握することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験と学習内容を結び付け、必要性をもたせる問題づくりをし、発問を工夫する。 好奇心や探求心を育むために、自然事象などから身近にある不思議に着目できるような導入を行う。 問題解決型の学習を継続して行っていくことで、活動の流れを身に付けさせる。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の現状や時事問題等に関心をもつ機会が少ない。 教科書や資料集、タブレットを使って意欲的に調べ学習を行うことができるが、資料から必要な情報を選択し、まとめる力に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞やタブレット等を活用し、日本や世界の現状を知る機会を意図的に設ける。 資料やグラフの見方のポイントを全体、個別に指導する。読み取ったこと以外に分かったことを共有する時間を設ける。 図や表などを用いたまとめ方を紹介したり、キーワードを提示し、まとめる視点を明確にしたりして、課題に取り組ませる。 学習問題を意識させ、課題解決型の授業を展開する。ICT機器を活用し、調べたり、グループでの話し合い等、交流する場面を設けたりしながら課題解決をする活動を取り入れる。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 思いや意図をもって、音楽を表現したりつくり出す活動に取り組むことに苦手意識がある。 歌唱、リコーダー、鍵盤楽器などの基礎的な技能に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用したり、ペアやグループの学習を効果的に取り入れたりし、友達の意見や演奏のよさに気付き、自分の表現や創作につなげていく。 目指す目標を明確にし、そのために必要な知識・技能をスモールステップで達成できるように指導していく。 ICT機器を活用し、運指を拡大して提示したり、児童一人一人に合わせた難易度の演奏を選択できるようにしたりする。 魅力的な題材を選択し、児童一人一人のよさを引き出せる活動を計画し、互いによさを認め合う言葉掛けをする。 		

令和5年度 府中市立府中第二小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に対する気持ちが先行し、用具の正しい使い方に意識が向かなくなることがある。 ・学習に対して主体的に取り組むことに、個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を活用しながら、正しい用具の使い方を繰り返し指導する。 ・児童が主体的に取り組みやすい題材を設定するとともに、一人一人の価値観を大切にしている指導を行う。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・細かい作業をする際に得手不得手の個人差が見られる。 ・学んだことを生活に生かしたり、生活の課題を学習の中で解決する方法を考えたりするなど、学習と生活を結び付ける力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画などの ICT 教材を活用したり、技能の習熟の程度により、個別指導やグループ別指導を行ったりするなど学習形態を工夫する。 ・家庭生活での実践を念頭に置いた学習のねらいを立て、「チャレンジカード」等を活用して、実践・振り返りができるようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣や経験の個人差が大きく、運動習慣がない児童は外に出て遊ぶことが少ない。 ・学習に対し、見通しや課題をもって取り組むことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動を、年間を通して継続して行い、運動経験を豊富にしていく。運動量を十分に確保し、運動に親しませる機会をつくる。 ・学習カードや学習資料、ICT 機器を活用しながら自分の課題をつかめるような指導を行う。また、友達との教え合い活動を取り入れ、客観的な視点を大切に、課題解決できる授業を行う。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・フレーズを使うことやアルファベットを書くことなど基礎基本の定着に個人差が見られる。 ・読むことについて、音と文字を一致させることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習った、覚えたフレーズを練習する時間を授業内で設ける。歌やチャンツ、パズルなど楽しく学べる教材を工夫する。 ・教師や ALT の会話を聞かせ、単語や文章の読み方を十分に理解させた上で、児童同士の会話につなげる。 ・ALT と会話をする事、実際に英語を使うことを大きなめあてとして、必要な単語やフレーズを毎時間学習していく。その中で英語を使う必然性をもった場面設定をつくる。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第二小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力や表現力が十分身につけていないことから、適切な表現方法を自分で見つけられないことに課題がある。 文章を正確に読み取る力に課題がある。 自分の考えを明確にして相手に伝えたり、相手の考えから自分の考えを広げたり、まとめる力に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章のモデルを提示したり表現の工夫されている文章を紹介したりすることで、参考にする機会を積極的に設ける。また、意味が分からない言葉は国語辞典で調べ、語彙力を高める。 読み取るときのポイントや視点を与える等、読み取りの指導を丁寧に行う。 ペアやグループで伝え合う活動を取り入れ、互いの考えを理解できるようにさせる。また、構成を考えて話すことや要点を押さえて聞き取ることを意識させるために、話し方、聞き方メモを活用する。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 単元や授業内容によって、目的意識をもつことが難しい。 小数や分数の四則計算や割合を求める技能の定着に個人差が見られる。 計算の仕方や意味を図や表を用いて説明する力や、文章を読み解いて立式する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の学習内容を生活に関連付けて捉えたり、児童一人一人の考えをつなげて学習内容を広げたりしていく授業を展開する。 小数や分数の大小比較をするなど、量感をもたせることで、内容の理解につなげていく。また、割合を求める際に比を活用するなど、既習事項を振り返ったり使ったりする機会を設ける。 考えたことを図や数直線、4マス関係表などを用いて表現し、根拠をもって解決していく力を身に付けさせる。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題—まとめ、予想—考察のつながりを把握する等、問題解決学習の過程において見通しをもつことに課題がある。 科学的に考え、考えたことを表現する力に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験と学習内容を結び付け、必要性をもたせる問題づくりの工夫をする等、児童の思いを基にして授業を展開していく。 問題解決型の学習(問題設定・実験方法・予想→全体共有、実験・結果、結果の共有・考察、結論)を継続して行い、活動の流れを身に付けさせる。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 歴史や政治の単元では、学習に対する意欲に個人差が見られる。 既習事項を、自分事として捉え、理解したことを表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜ、そうなったのか。」「この後どうなるのだろうか。」という疑問を学級全体に生かしながら授業を展開する。 知識を覚えるだけでなく、既習事項を自分なりに言い換え、他の場に表現する機会を設け、個々の思考を見とれるように工夫する。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 思いや意図をもって、音楽を表現したりつくったりする活動に取り組むことに苦手意識がある。 歌唱、リコーダー、鍵盤楽器などの基礎的な技能に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用したり、ペアやグループの学習を効果的に取り入れたりし、友達の意見や演奏のよさに気付き、自分の表現や創作につなげていく。 目指す目標を明確にし、そのために必要な知識・技能をスモールステップで達成できるように指導していく。 ICT機器を活用し、運指を拡大して提示したり、児童一人一人に合わせた難易度の演奏を選択できるようにしたりする。 魅力的な題材を選択し、児童一人一人のよさを引き出せる活動を計画し、互いによさを認め合う言葉掛けをする。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容は理解しているが、自分の考えや表現に自信をもてない姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の考えを深め、前向きに活動したくなるような題材を設定するとともに、児童一人一人の考えを認め合う場を設定する。 		

令和5年度 府中市立府中第二小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の生活経験に個人差があり、学習内容によっては見通しがもちづらい。 ・学んだことを生活に生かしたり、生活の課題を学習の中で解決する方法を考えたりするなど、学習と生活を結び付ける力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画資料を用いたり、習熟の程度でグループ別指導を行って教え合ったりする活動を取り入れる。 ・家庭生活での実践を念頭に置いた学習のねらいを立て、「チャレンジカード」等を活用して、実践・振り返りができるようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣や経験のある児童とない児童との差が大きく、運動習慣がない児童は外に出て遊ぶことが少ない。 ・課題意識をもって学習に取り組むことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動を、年間を通して継続して行い、運動経験を豊富にしていく。運動量を十分に確保し、運動に親しませる機会をつくる。 ・自己のめあてに応じた場や学習方法を選び、仲間と協力しながら課題解決できるよう、授業展開を工夫する。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・フレーズの定着やそのフレーズを実際に活用する力に個人差がある。 ・読むことについて、音と文字を一致させることに課題がある。 ・書くことについて、大文字・小文字の判別や四本線の使い方への理解に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習った、覚えたフレーズを練習する時間を授業内で設ける。また、英語を用いる活動を多く取り入れる。 ・教師や ALT の会話を聞かせ、単語や文章の読み方を十分に理解させた上で、児童同士の会話につなげる。 ・英語のノートやワークシートを活用して書く活動を取り入れる。 ・ALT と会話をする事、実際に英語を使うことを大きなめあてとして、必要な単語やフレーズを毎時間学習していく。その中で英語を使う必然性をもった場面設定をする。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていない
で、2学期末、年度末に評価する。